

人生には多くの転機があります。そしてその中で最も大きな転機は、なんといっても学生から社会人になる時期だと思えます。その時期は、15歳、18歳、22歳、25歳くらいと人によって異なるかもしれ

## ナビゲーター

ませんが、「お金を払って学ぶ」学生の立場から「働いて収入を得る」社会人の立場になるときです。

もっとも現代は、一度社会に出てからもう一度大学や大学院に行くなど学び直しによる「キャリアチェンジ」や

# 人生100年時代に向けたキャリア開発

その考え方と方法

「キャリアアップ」もありますが、はじめて社会に出る時は、誰でも迷うものです。

財団法人産業雇用安定センターの創設にご功績のあった「フオアサイト労研」を主宰されていた田代裕氏の次の言葉が、印象に残っています。

その言葉とは、「振り返ってみると、人生の最初の就職に、人はどれだけ材料を基に熟慮を重ねた結果であったと言えるか」。「選択肢の数が少なかったが、もしも相談に応

## 学生から社会人へ

じてもっとアドバイスをしてくれる人が身近に存在していたら、進路は変わっていたかもしれないと今にして思うのである」。「これは自分の人生を失敗したと思っているということではない。私はこれで良かったと思っているが、多様な世界が開けている今日、他からの助言はきつと役に立つと思う」。

「キャリアコンサルタント」や「キャリアカウンセリング」という言葉が世の中で普及し

ていない時代に、これほどキャリアコンサルタントの有用性やキャリアカウンセリングの必要性を述べたこの言葉はまさに至言です。私自身も5年前の大学卒業時、「熟慮を重ねた結果」とは言えませんが就職先を選び、選んだ会社と自分の会社員としての人生に納得しています。

私は現在、ある大学の1年生に対して「キャリアデザイン」という講座を10年間ほど非常勤講師で受け持っています。

す。学生との年齢差は毎年1年ずつ大きくなるのは当然ですが、これらの学生が3年生になって就職活動を行う時期に後悔しないように、学生時代に何を目標にどんなことをしておいたら良いかを、自ら考えてもらえるような授業にしています。

そして具体的には、自分の性格や職業の志向性を検査して自分自身を理解する、会社とはどんな組織で運営され、どんな産業や職業があるかを

そして学生にいつも言っているのは、「楽しい仕事は少ない」かもしれないが、「楽しく仕事をすること」は出来る、みんな個性が違うのだから会社の大小にはこだわらず、就職先は「みんなが違って、みんないい」、学生時代に「この時にしかできないいろいろな体験をすること」の大切さを強調しています。

【一般社団法人日本産業力ウンセラー協会中部支部会  
員、国家資格キャリアコンサルタント、産業力ウンセラー、  
社会保険労務士、中小企業診断士 杉本 和夫】

(火曜日に掲載)

# 大学で行われるキャリア教育

